

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 139人	社会 139人	数学 139人
	理科 139人	英語 139人	

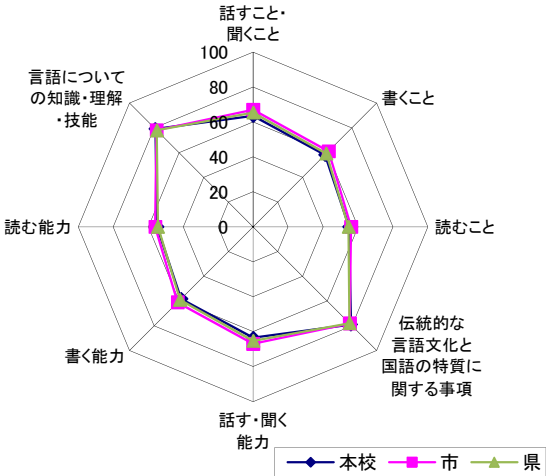
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.5	67.0	65.3
	書くこと	58.3	61.1	59.2
	読むこと	54.9	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.1	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	63.5	67.0	65.3
	書く能力	58.3	61.1	59.2
	読む能力	54.9	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	79.1	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

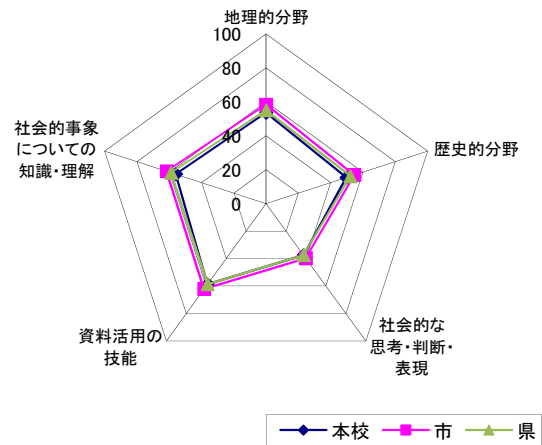
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことに関しては、本校は県より1.8ポイント下回っており、市よりも3.5ポイント下回っている。設問別では、自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く設問の正答率が県や市と比較して低い。 ○話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる設問の正答率は、県や市と比較して高い。	・スピーチ、意見文の発表、ディベートの学習を定期的に行い、評価プリントや振り返りシートなどを活用しながら、客観的な視点から物事を見る工夫も取り入れていく。また、話し合いの結果から得た自分の考えを再構築させるような時間も設定し、力をつけさせたい。
書くこと	●書くことに関しては、本校は県より0.9ポイント下回っており、市よりも2.8ポイント下回っている。設問別では、題材の捉え方について2つの原稿を比較する設問や目的に応じて推敲する設問の正答率が、県や市と比較して低い。	・作品ごとに自分の感想や意見を文章にしていこうということを継続して行い、書く機会の回数を意識して増やしていく。また、様々な機会において書いた文章をきちんと校正する習慣をつけさせたい。
読むこと	●読むことに関しては、本校は県より0.4ポイント上回っており、市よりも1.1ポイント下回っている。設問別では、話し合いを基にして要旨を記述する設問の正答率が県や市と比較して低い。 ○語句の文脈上の意味を理解し適切に用いる設問や文学作品の表現の特徴を捉える設問の正答率は、県や市と比較して高い。	・文章の解釈だけでなく、書かれ方の特徴や効果について自分の考えをもって感想を交流したり、評価し合ったりする学習活動を継続して行っていく。 ・日常生活の中にある説明や評論などの文章を題材にしながら構成や展開に注目させる指導を行っていく。 ・教材と関連させて並行読書を位置付けながら、多読させていく指導を継続的に行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関しては、本校は県より1.1ポイント上回っており、市よりも0.9ポイント上回っている。設問別では、漢字の成り立ちについての設問や比喩表現についての設問で、県や市の正答率は、県や市と比較して高い。 ●文脈の中で、適切な接続詞を選択する設問の正答率が、県や市と比較してやや低い。	・漢字練習ノートを活用させて漢字を覚えるだけでなく、語彙の意味を調べて理解することを併せて学習させたい。また、難解な熟語の読みなども用例とともに学習させながら、定着を図りたい。 ・読み物の教材の中でも、必要に応じて文法事項に触れ、確認を行っていく。また、様々な文章を通して段落相互の関係やつながりを意識させる学習を意図的に配置していく。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	53.6	58.4	55.0
	歴史的分野	49.8	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	37.6	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	58.8	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	56.0	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

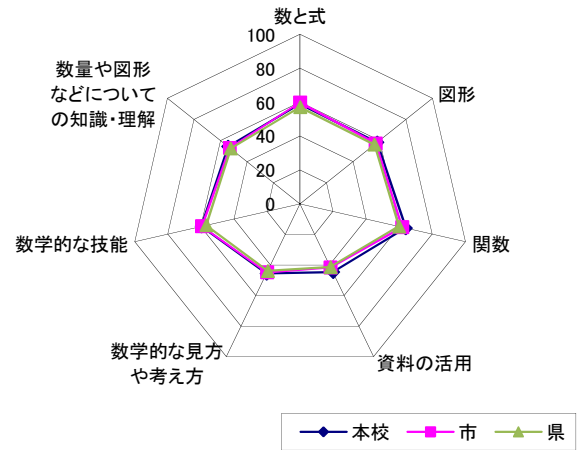
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○設問別では、示された条件に当てはまる国を推測し地図から選択する問題では、県の平均を3.1ポイント上回っている。冷帯の特徴と気候帯の分布図における分布地域、キリスト教の特徴と宗教分布図における分布地域を読み取り、選択肢から当てはまる回答を選ぶ問題は、それぞれ無回答率が0.0ポイントであった。 ●領域全体では、県の平均を1.4ポイント下回っている。設問別では、地球の模式図における海洋の名称を問う問題では8.9ポイント、北アメリカ州に位置する山脈の名称を問う問題では9.4ポイント県の平均を下回っている。	・地図上に示された海洋名や山脈名など社会的事象についての知識・理解を問う問題に対する正答率が低かった。地名や国名を覚えたとしてもそれらがどこに存在するのか地図上で判断することに苦手意識を感じる生徒が多い。基本的知識を確実に習得できるように、作図作業を指導に計画的に位置づけるなど、地理的事象を空間的にとらえられるように、今後の授業の中で様々な地図や資料を活用する活動を充実させたい。
歴史的分野	○設問別では、資料から古墳時代の特徴を考察する問題が4.8ポイント、鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いを読み取る問題が3.9ポイント県の平均を上回っている。 ●領域全体では、県の平均を2.4ポイント下回っている。設問別では、国風文化での仮名文字の使用についての問題で10.2ポイント、足利義満が始めた明との貿易の名称を問う問題が11.7ポイント県の平均を下回っている。無回答率では、年代の表し方が5.6ポイント、北条泰時によって制定された武家法の名称を問う問題で5.9ポイント県の平均を上回っている。	・歴史的事象を確認する問題が県の平均を大きく下回っているため、時系列を整理し、歴史の流れを大観させた上で、節目となる時代や中心人物などを確認していくような授業を展開できるように工夫していきたい。そのためにも年表にまとめさせる作業を取り入れたり、史料や当時の地図を読み取らせたりするなどの学習活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	58.8	59.8	57.0
	図形	58.1	57.1	56.1
	関数	64.0	61.8	59.8
	資料の活用	44.7	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	45.6	44.9	43.9
	数学的な技能	59.7	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	54.2	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

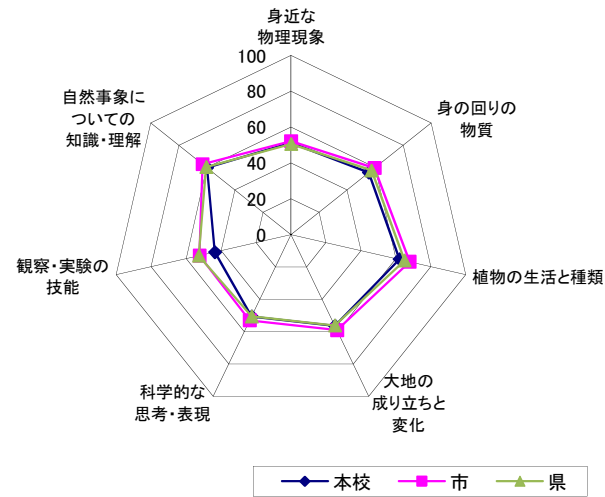
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基礎的な内容を問う問題においては県の平均正答率を上回っており、おおむね良好である。特に一次式の計算では県、市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●活用に関する問題においては、平均正答率が10%～40%と低く、県、市の平均正答率を2ポイント程度下回っている。	・身近で具体的な事象を用いた学習で計算の仕組みを深く理解させ、十分な問題演習の機会を通して計算力の向上を図る。 ・他領域の学習においても比例式を利用できる場面を見だし、一般的な四則計算や文字式の計算と同様に比例式を用いようとする態度を育てる。
図形	○空間図形に関する問題(基礎・活用)においては平均正答率が県、市を上回っており、おおむね良好である。特に活用に関する問題では、県、市の平均正答率を7ポイント以上上回っている。 ●平面図形に関する問題(活用)においては、平均正答率が50%程度と低く、県、市の平均正答率をわずかに下回っている。	・見取図や展開図、投影図に関する基礎的な知識を身につけさせるだけでなく、それぞれの図がもつ長所や短所を整理することで理解を深めさせ、活用の場を広げていく。 ・正しい用語を用いて説明する力を育成するために、発表の仕方の良い点を適宜取り上げて賞賛するとともに、改善点について確認する。
関数	○平均正答率が県、市を上回っており、おおむね良好である。特に比例のグラフをかく問題においては、県、市の平均正答率を7ポイント以上上回っている。 ●理由を述べる活用の問題において、平均正答率が県、市の平均正答率と同程度であるものの、54%と低い。	・表、式、グラフのもつ長所、短所を正しく理解させ、目的に応じて適切に使用できる力を育成する。 ・一定の速さで進む場合の時間と道のりの関係を表した比例のグラフにおいて、傾きのもつ意味について考えさせることで、グラフのもつ長所について理解を深めさせる。
資料の活用	○平均正答率が県、市を上回っており、おおむね良好である。特に条件を満たす階級の階級値を求める問題においては、県、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●度数分布表にあてはまる度数を求める易しい問題において、平均正答率が87.1%と高いものの、県、市の平均正答率を2ポイントほど下回っている。	・度数分布表やヒストグラムから代表値(平均値、中央値、最頻値)を求める方法について、単に知識として身につけさせるだけでなく、それぞれの代表値の意味を元に求め方を考えさせる活動を取り入れるなど、理解を深めさせる授業を行う。 ・易しい問題については正答率95%以上を目指し、TTや習熟度別学習を取り入れて基礎基本の定着を図る。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	51.3	52.1	50.5
	身の回りの物質	55.5	59.6	57.4
	植物の生活と種類	62.0	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	56.4	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	50.7	53.1	50.6
	観察・実験の技能	43.6	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	59.9	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

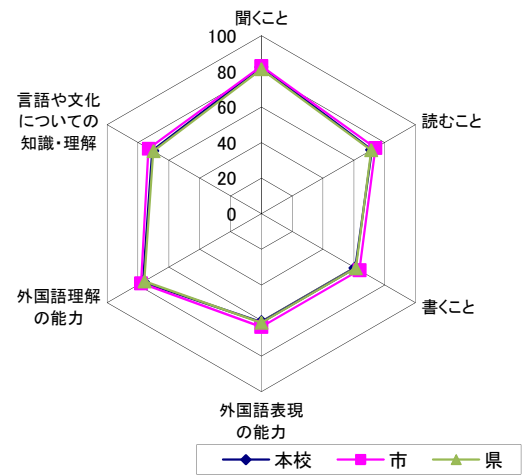
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域全体では、県の平均を0.8ポイント上回っている。設問別では、力と圧力について問うすべての問題で県平均を上回り、特に物体にはたらく気圧の問題で県平均を12.2ポイント上回っている。 ●設問別では、弦に関する音の問題で3.7ポイント、光が水中へ進むときの問題で7.7ポイント県の平均を下回っている。	・気圧に関する問題は、模式図をかかせながら、起きている現象を言葉で表現する練習をしていた成果が出たと考えられる。今後も同様な指導を継続していきたい。 ・音や光の物理分野で、基礎的な理解が不十分な状況が見られた。作図をしたり、ノートにまとめるような場面で、既習の用語の確認を小まめに行うなどしながら、基礎基本の定着を図っていきたい。
身の回りの物質	○設問別では、水溶液の質量パーセント濃度を求める問題で4.6ポイント、分類された物質から使用された液体を推測する問題で3.4ポイント県の平均を上回っている。 ●領域全体では、県の平均を1.9ポイント下回っている。設問別では、物質のすがたに関する正答率が低く、密度から物質を特定する問題で3.8ポイント、ガスバーナーの使用法に関する問題では12.7ポイント県の平均を下回っている。	・質量パーセント濃度の問題では県の平均を上回ったものの、全体の正答率としては低かった。プリントによる問題演習の充実や、小テストを実施して定着度を確認しながら、その結果を指導に生かしていきたい。 ・実験が多い分野である。何のために実験を行うのか。予想としてはどうなるか。実験の結果を適切にまとめられているか。結果から何がわかるか。わかったことをどのように活用していくのか。以上のことを常に考えさせながら、主体的に実験・観察に取り組ませられるよう工夫したい。 ・ガスバーナーの使い方に関するパフォーマンス課題を適時取り入れていれながら、全員に定着させていきたい。
植物の生活と種類	○設問別では、胚珠の位置に関する問題で1.9ポイント、種子植物の分類の問題で0.8ポイント県の平均を上回っている。 ●領域全体では、県の平均を2.9ポイント下回っている。設問別では、顕微鏡を操作する手順の問題で10.9ポイント、対照実験から光合成について考察する問題で6.8ポイント、種子をつくらない植物の仲間のふやし方の問題で5.0ポイント県の平均を下回っている。	・言葉だけを覚えるのではなく、観察実験を通して何が言えるのかを表現させる場面や課題を増やしていきたい。 ・顕微鏡を1人1台準備しているため、全員がそれなりに使用できている良さのある反面、何となく使用し、正しいと思い込んでいる生徒が多く見られる結果となった。グループ毎に互いの使用方法をチェックさせる機会を与えるなど工夫したい。
大地の成り立ちと変化	○領域全体では、県の平均を0.1ポイント上回っている。設問別では、鉱物の種類の問題で9.4ポイント、表をもとに火山灰の色と火山の形を関係づける問題で16.2ポイント県の平均を上回っている。 ●設問別では、地震の規模を表す尺度の名称の問題で7.7ポイント、地層の堆積環境を推定する化石の名称の問題で18.3ポイント、柱状図の比較から地層が堆積した順序を推測する問題で7.7ポイント県の平均を下回っている。	・山の写真を見せて、その山の特徴からわかることを説明するようなパフォーマンス課題を取り入れ、指導した成果が出たと考えられる。習得した知識が定着していると同時に、それを正しく活用しているようすが伺えた。継続していきたい。 ・地震や地層に関する基本的な用語の正答率が低かった。必ず覚えるべき用語を活用しながら説明するような課題を導入していきたい。 ・柱状図の問題は教科書やワークだけでは不十分であるため、発展課題として取り入れながら、見方・考え方を養っていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	82.5	82.9	81.2
	読むこと	71.7	73.9	71.2
	書くこと	60.9	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	60.9	63.6	61.2
	外国語理解の能力	76.8	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	70.8	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことに関しては県より1. 3ポイント上回っている。設問別では、曜日を聞き取ること、相手の提案に適切に应答すること等の正答率が市や県より5ポイント以上高い。 ●聞くことに関しては、市より0. 4ポイント下回っている。設問別では、日付を聞き取ること、自己紹介を聞いて何をするのかを聞き取ること等の正答率が市や県より5ポイント以上低い。	・日付については月の名前、数字(序数)等の復習を行ったり、あいさつの中で曜日、日付等について問答する学習を取り入れていきたい。 ・自己紹介などの内容の聞き取りについては、授業中のインタラクションや本文の導入でまとまった量の英文を聞かせたり、文法事項の中の文構造や動詞の時制などの基本的な知識・理解を深めさせたり、メモを取りながら聞くことの大切さを再度指導していきたい。 ・授業中、英語で指示したり情報を伝達したりする場面を増やしていきたい。
読むこと	○読むことに関しては県より0. 5ポイント上回っている。設問別では、英文に合うように人称代名詞の所有格を選ぶこと等の正答率が市や県より5ポイント以上高い。 ●読むことに関しては、市より2. 2ポイント下回っている。設問別では英文に合うように現在進行形や一般動詞の過去形を理解しているか、対話文を読んで応答文に合う質問文を理解しているか、長文の中の人称代名詞が示す人物を読み取ることができるか等の正答率が市より5ポイント以上低い。	・本文の内容理解の際に、その内容に合わせて「聞く・話す」活動を通して理解を図る場合と、「読み取る」活動を通して理解をはかる場合を適切に選択して指導していきたい。また適切な内容理解に必要な語、連語、慣用表現や基本的な文法事項の指導にも力を入れていきたい。
書くこと	○書くことに関しては、金曜日を英語で書くことの正答率が市や県より5ポイント以上高い。 ●書くことに関しては、市より2. 7ポイント、県より0. 3ポイント下回っている。設問別では過去形の疑問文、help with ~、How many ~を理解し正しい語順で書くこと等の正答率が市や県より5ポイント以上低い。また対話文に当てはまる英文を書くことの正答率は市より5ポイント以上低い。	・文法事項の導入や定着のために行っているインタビュー活動の後で、その内容を英文で書いて表現する活動を常時行っていきたい。 ・各Lessonのまとめを行う際に、テーマに沿ってまとまりのある英文を書く活動を増やしていきたい。 ・適切な英文を書くための基礎となる文法事項の指導にも力を入れていきたい。

宇都宮市立一条中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

＜学校や家庭での学習について＞

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問に対する本校生徒の肯定割合は80%に近く、県や市の平均を上回っている。また、「勉強していて、不思議だな、なぜだろう、と感ずることがある。」に対する肯定割合は84.2%と高く、県や市の平均を上回っている。これらのことから、学習に対する興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいる様子が見える。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の質問に対する本校生徒の肯定割合は42.4%で、県や市の平均を3～4ポイント上回っている。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」に対する肯定割合は80%に近く、県や市の平均を4～5ポイント上回っている。どのクラスも日頃から発表しやすい雰囲気がつくられており、自分の意見を述べやすい環境である。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」の質問に対する本校生徒の肯定割合は38.1%で、県の平均を20ポイント以上下回っている。また、「家で、学校の授業の予習をしている。」に対する肯定割合は34.5%、「家で、学校の授業の復習をしている。」に対する肯定割合は54.0%で、ともに県や市の平均を大きく下回っている。宿題の内容を工夫するなどして、家庭学習の習慣を身につけさせる必要がある。更に、宿題の他に自分で考えた学習にも取り組めるように家庭学習ノートの十分な活用を図りたい。

＜毎日の生活について＞

○1か月に3冊以上の本を読む本校生徒の割合は53.9%で、県や市の平均を大きく上回っている。朝の読書の時間が落ち着いた雰囲気で行われており、読書の習慣がしっかりと身についている。

●「家の人と学校でのできごとについて話をしている。」の質問に対する本校生徒の肯定割合は66.2%で、県や市の平均を10ポイント以上下回っている。また、「家の人と将来のことについて話すことがある。」に対する肯定割合は56.8%、「家の人と学習について話をしている。」に対する肯定割合は69.8%で、ともに県や市の平均を下回っている。家庭における会話の充実について、様々な機会をとらえて協力を呼びかけていきたい。